

船舶事故調査報告書

平成26年5月22日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵男（部会長）

委員 庄司 邦昭

委員 根本 美奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成25年12月7日 01時15分ごろ
発生場所	長崎県壱岐市郷ノ浦町 蟬蛾ノ瀬戸フノリ瀬 壱岐市所在の壱岐大瀬灯台から真方位213°800m付近 (概位 北緯33°44.8' 東経129°38.4')
事故調査の経過	平成25年12月9日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 幸栄丸、4.9トン SA3-23330（漁船登録番号）、個人所有 11.41m(Lr)×2.48m×0.81m、FRP ディーゼル機関、264.78kW、昭和59年9月9日 第290-26012号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 男性 56歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和53年10月5日 免許証交付日 平成23年8月23日 (平成29年8月20日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	舵頭材が曲損、船尾船底外板に破口（舵機室浸水）、シャフトブラケットが折損、プロペラ翼が曲損、バッテリーが濡損
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、平成25年12月3日11時30分ごろ、佐賀県唐津市高串漁港を出港し、長崎県対馬市厳原港東方沖に向かった。 船長は、16時30分ごろから対馬東方沖において、いか釣り漁の操業を開始し、12月6日21時00分ごろ、対馬市赤島東方1海里（M）付近において、4日目の漁をやめ、錨を揚げ、真方位約175°に自動操舵装置を設定し、対地速力約9.8～10.0ノットで約3時間航行した後、手動操舵に切り替えて蟬蛾ノ瀬戸に向けて南東進した。 船長は、操舵室の椅子に座って操船しており、7日01時00分ごろ、壱岐フノリ瀬灯標を前方に確認し、レーダーのレンジを3Mから

	<p>1.5 Mに変え、沓岐フノリ瀬灯標に向けて航行した。</p> <p>船長は、沓岐フノリ瀬灯標の手前において、進路を沓岐島烏帽子埼に向けるつもりであり、01時10分ごろレーダーのレンジを1.5 Mから0.75 Mに変え、レーダーを監視し、目視で沓岐フノリ瀬灯標を見ていたが、いつの間にか居眠りに陥った。</p> <p>本船は、12月7日01時15分ごろ沓岐フノリ瀬灯標の西側の干出浜（岩）に乗り揚げた。</p> <p>船長は、衝撃で目が覚め、乗り揚げたことが分かったので、海上保安部及び家族に連絡した。</p> <p>船長の家族は、佐賀玄海漁業協同組合高串支所に電話して救助を要請した。</p> <p>本船は、乗揚後、15分ほど岩礁上で舵を基点にして横揺れしていたが、自然に離礁した。</p> <p>本船は、夜が明けてから知人の漁船2隻にえい航され、11時30分ごろ高串漁港に帰った。</p>
<p>気象・海象</p>	<p>気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 1、視界 良好 海象：波高 約1m、潮汐 下げ潮の初期（沓岐島郷ノ浦港）</p>
<p>その他の事項</p>	<p>船長は、操業の初日は約6時間30分、2日目は約7時間の睡眠をとったが、3日目は約2時間30分の睡眠であった。</p> <p>船長は、操業の初日は約5時間30分、2日目は約16時間、3日目は約17時間30分及び4日目は約17時間操業しており、疲労を感じていた。</p> <p>船長は、いつも航行している航路なので、蠅蛾ノ瀬戸のフノリ瀬の干出浜（岩）については知っていた。</p> <p>船長は、03時30分に高串漁港で競りが始まるので、03時00分までに帰るつもりだった。</p> <p>本船の喫水は、船首約0.5m、船尾約1.5mであった。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、沓岐島西方沖を手動操舵で南東進中、操船中の船長が居眠りに陥ったことから、フノリ瀬灯標西側の干出浜（岩）に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、本事故の前日、約2時間30分の睡眠であったこと、3日連続16時間を超す操業であり、疲労が蓄積していたこと、及び椅子に座って操船を続けていたことから、居眠りに陥ったものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、夜間、本船が、沓岐島西方沖を手動操舵で南東進中、操船中の船長が居眠りに陥ったため、フノリ瀬灯標西側の干出浜（岩）</p>

	に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 身体に無理のない操業計画を立てること。・ 十分な睡眠をとって航行すること。・ 眠気を感じた場合は、航行を控えるか、又は眠気をとる動作等を行うこと。